

新春対談 2021



総社市議会議長
剣持 堅吾

気持ちが元気なまちになれるよう、チーム議会として進めていきたい

昭和21年4月29日生まれ(74歳)。1995年から旧山手村議会議員を3期務め、総社市議会議員では5期目。2019年10月から2回目の議長に就任している。

議長 私たちも、市民や企業の皆さんが今の苦境を乗り越えて、少しでも早く通常の生活に戻れるよう願っています。

市長 市内経済を回復させることが急務だったのだから、テークアウト実店舗で使える「お持ち帰りDEお得券」は、ゴルフデーンウィーク前に発売しました。想像以上の経済効果があつたことで、市内店舗の利用を促進すれば経済が回復すると確信しました。そこで、昨年10月に経済対策第2弾として、プレミアム率40%の商品券「そうじゃ復活券」事業を打ち出しました。10億円分販売して、市内で使ってもらうことで、市内経済を活性化させる原動力になっていきます。

市長 障がい者の皆さんは、コロナ禍のピンチをチャンスに変えました。2月の初めに、市が備蓄していたマスクを市民の皆さんに配布しましたが、市内ではまだ不足していた状況でした。そこで、市内の障がい者福祉施設にマスクの製作をお願いしたら、総社デニム

ピンチをチャンスに 総社デニムマスク

市長 コロナ禍で前年よりも売り上げが減少した市内の中小企業などを支援するため、そうじゃ未来資金として支援金を支給しました。また、新しい分野に挑戦する企業に補助金を交付しました。この制度を利用した一例として、自動車部品を作っている会社が新しく医療機器部品を作り始めました。非常事態に強い企業になるよう助けていくことも、大切だと思っています。



雪舟生誕地公園で思いを語る

議長 障がい者の給与や賃金の向上につながる取り組みに、感銘を受けました。総社デニムマスク実行委員会の皆さんから思いや考えを聞き、チーム議会でも応援しようということになりました。出席者全員が総社デニムマスクを着用して本会議に臨む「総社デニムマスク議会」を、6月定例会議会から行っています。



総社市長
片岡 聡一

必ず立ち直り復活するという強い気持ちをもって、市民を守りきるため全力で戦う

昭和34年8月2日生まれ(61歳)。2007年の総社市長選で初当選し、以後3期12年間務める。2019年10月に行われた選挙で無投票再選を果たし、現在4期目。

市長・議長 明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひします。

雪舟生誕地公園 11月に完成

市長 雪舟生誕600年だった昨年、雪舟生誕地公園が完成しました。

議長 赤浜地区の人たちの長年の念願がかなえられて、議会としてもうれいします。

市長 11月21日に開園して、23日までの三連休だけで来園者が1000人を超えたんですよ。

議長 雪舟に親しめる素晴らしい施設ですね。これからもっと、総社の新しい観光地として育てていかないといいけませんね。

新型コロナウイルス 感染症対策

市長 昨年は、新型コロナウイルスから市民を守るために精一杯がんばり抜

いた1年でした。災害対応と同じく、良いと思つたことはスピード感をもってやりきつた。これは、議会とのチームプレーでできたことでした。

議長 議会として、市の政策をどのようにサポートできるか、迅速に施策を進めるために議会がどうするかに重点を置いて考えました。

市長 コロナは、市民や議会と一致団結して乗り越えなければならぬ課題。団結することについては、西日本豪雨で得た皆さんとの絆が大いに生かされたと感じました。感染者を優しく見守ってくれた市民の皆さんにも、感謝申し上げます。

議長 今まで通りではない、大変な1年でしたね。

議長 議会も市議会の開会中は、議場が密にならないように議員席の間隔を空けたり、市側は答弁者だけ入ってもらったり、いろいろな対応を取りました。

市長 経済対策がいち早く実施できたのは、議会の協力があったからこそでした。一人あたり10万円の特別定額給付金の素早い支給や、4カ月間の水道料金完全無料化を実施できました。

議長 議会も市民の不安を払拭したい思いでした。コロナ対策については、議員全員が市に協力していかうという気持ちでいました。私も議長として速やかに対応ができるよう努めました。5月には、コロナ対策に活用し

市内経済の 回復が急務